

愛知サークル5月例会報告

2021年5月23日(日) 9:00 ~ 12:40 オンライン 参加: 10名

1 「くまさん」(4年) 映像

- 子どもが反応し合っており、活気があるのがよい。
- 子どもの発言を分類整理するとき、教師は板書したほうがよい。
- 子どもはよくつぶやいているのはいいが、全員参加ができていない。それをするためには、「見て聴く」を徹底させる必要がある。また、手遊びを放置は不可。見逃さない。子どもの発言に対する教師の対応が無反応すぎる。教師は反応して、子どもの発言の橋渡しをしないとイケない。ノーリアクションに気づき直したい。

2 「たけのこ くん」(5・6年) 映像

- 子どもの発言がたくさんあり、学級の雰囲気もとてもよい。教師のリアクションもできている。
- この教材は、子どもに合っているのかは考えたい。
- コロナの時期とはいえ、少ない人数なのでもう少し黒板と近づけたり子ども同士をつないだり手立てを講じたい。
- どの言葉をどう使って展開しようとしているのか。
- 教師がどんな学級を目指そうとしているのか。

3 「やくそく」(5・6年) 記録・映像

- 教師が教材解釈をして解答をもっているの、どうしてもそちらへ誘導してしまっている。
- 「あれだけけんかしていたのに、なぜ約束したのか。という大問題を解決していこうとしているのか? ピンと来ない。解釈文が大雑把で弱い。

4 「すすめのこ」(3年) 記録・映像

- 子どもたちは問題解決を楽しんでいて、よい教材だと改めてよい教材だと思った。
- ただ、本人も反省しているが作戦がなく、教師が無理やりルールに乗せている。もっと文をきちんとやらなくてはイケない。
- 何をここでやって、おさえて伝えて、つなげようとしているのかが分からない。構造図がないの、イケない。

5 「さとうと しお」(1年) 映像

- 教師の指示が通りづらい状況になってきていて、全員を待てずに妥協している現状を何とかしたいという課題をもって参加。声掛けの仕方や教師の子どもへの対応について、様々な意見が出たが、その多くは、形式的なものであった。そこで、やはり「教材をどう使うか」「中身で勝負」これは、1年生にでも言えることだという指摘に納得した。全員の子が面白いと思うように教材の面白さを教師がまず見つけなくてはと再確認した。

◇ コメント: 森川

1学期中盤になっても年度初めにやるようなことをやっている。みんなで教材解釈して分かり切ったものを実践するのではなく、この時期だからこそそのチャレンジをしようという気概が感じられない。6月に期待したい。